

消防・救助技術の高度化等検討会救助分科会（第1回）議事概要

1. 検討会の概要

- (1) 日時 : 平成24年8月3日（金）10:00～12:00
- (2) 場所 : 金融庁中央合同庁舎第7号館西館13階 1320会議室
- (3) 出席者 : 小林座長、飯田委員、奥村委員、椛嶋委員、小出委員、西條委員、瀬戸委員、鳥海委員、松野委員、吉田委員、渡辺委員

2. 概要

救助分科会（BC災害）の検討範囲の確認、マニュアルの追記・修正内容の検討を行った。

【各委員の主な意見】

- 病原体の輸送中の事故や研究所から盗まれた等の対策については厚生労働省の感染症法の中で規定されている。
- 病原体を輸送する場合、警察庁に許可を得、輸送ルート进行明らかにして輸送しているため、比較的管理されている。
- バイオテロにおいて、除染をする前に可能性のある病原体を同定するシステムをマニュアルの中に明記することが重要。
- 例えば、天然痘の患者を搬送する場合、ワクチンを接種した救急隊員が搬送すると感染しにくいことが研究結果から判明しているため、予めプロテクションの構築をしておくことが必要。
- 事故が起こった時に何も知らず初動の消防が被害を受けている事例がある。出動する前に災害を特定できているのは稀であり、通報を受けた時点や第一出動する時点からマニュアルに追記すべき。
- BC災害に対し、初動から消防隊員を守るシステムが必要。
- 全ての災害に対して、虚心坦懐にアプローチしていく考え方を明確にし、NかBかかCか分からない災害に対し大過ない対応ができるようにすべき。
- 大小消防本部がある中で、本当に対応できるのか。専門的知識が必要ではないか。資機材があっても有効に活用できるとは思えない。

- マニュアルには、NBC 災害全般の一般的特性、災害毎の一般的特性を追記すべき。
- NBC 災害は情報が一人歩きしやすいので、情報収集と情報管理の重要性をマニュアルに追記すべき。
- マニュアルの最後に有用なウェブサイトのアドレスを記載すべき。
- B 災害に対応する資機材で、正しいものを正しいと検知できる「感度」と、違うものを違うと判断できる「特異度」をマニュアルに明記することが必要。
- 被害の範囲は気象、物質及び地形等によって大きく変化するので、予測ソフトを使用してもよいのではないか。
- START 方式は外傷を主とした災害に有効である。他方、NBC 災害でのトリアージにおいて、臨床中毒学的な観点では心肺停止状態の患者に対し呼吸管理ができれば生存率は上がるので、医療資源が続く限り活動を続けることが重要。
- テロにおいて現行のマニュアルでは二次トラップのおそれがないものとしているが、可能性は否定できないため、警察等と協力して活動することを記述すべき。